

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年10月15日

【評価実施概要】

事業所番号	3270800349		
法人名	株式会社 ひょうま		
事業所名	グループホームひなたぼっこ向横田		
所在地	島根県益田市向横田イ805番1 (電話) 0856-25-1722		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白潟本町43番地		
訪問調査日	平成21年9月25日	評価確定日	平成21年10月27日

【情報提供票より】(平成21年9月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年6月17日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	9人	常勤	5人, 非常勤 4人, 常勤換算 6.6人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	A室36,000 B室30,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	380 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成21年9月1日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名	
要介護1	3名	要介護2	1名			
要介護3	2名	要介護4	2名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	84.7歳	最低	74歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院、村野医院、松ヶ丘病院、斉藤歯科医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設8年目のホームで利用者はいつもの場所で新聞を読んだり、おしゃべりをしたり、八幡宮に行ったり、自分のペースで暮らしている。利用者一人ひとりがいままでの生活や習慣を変えることなく心地よく過ごせるよう職員はさりげなく接して一日一日が笑顔のある生活になるように心がけて支援している。今年から運営推進会議に毎回新メンバー(地域のお母さん方)を加え、地域との交流や啓発活動がさらに活発になった。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 「介護計画、個人記録などの開示」「入浴を楽しむことができる支援」「同業者との交流」は改善に向けて取り組んでいる。「鍵をかけないケア」「災害時の備蓄」については引き続きの課題である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は職員全員で一日に数項目づつ話し合いながら数日をかけ評価し、それを管理者がまとめ作成した。自己評価を通してさらに頑張る取り組み項目や、改善点など確認しあい、さらなるサービスの向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 二ヶ月に一回開催している。利用者の日々の状況や行事予定、行政からの連絡事項、事故報告、研修報告、家族のアンケートの結果、など報告して、意見交換をしている。インフルエンザ情報、徘徊ネットワーク作りや避難時のベランダからの脱出方法などアイデアや意見、協力をいただき運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会時、家族会(家族だけの話し合いの場)、ケアプランの作成時、家族アンケート(無記名)など実施して家族の意見が出やすい場面を作り聞く姿勢で対応している。意見は全職員で話し合い、できる所から取り組んでいる。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、お宮の清掃や敬老会など年間を通して諸行事に積極的に参加し地域に溶け込んでいる。「ひなたぼっこ祭」では認知症の話や介護相談会、バザーなどをし、啓発、交流している。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いままでの生活や習慣を変えることなくその人らしく暮らし続けることを支援する地域密着型の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、理念に沿った介護が出来ているか独自の自己評価をおこなって振り返り、話し合いながら取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し宮清掃や蛍祭り、敬老会など行事に積極的に参加している。ひなたぼっこ祭りや避難訓練に協力してもらったりして積極的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を踏まえ、改善計画を作成し改善に取り組んだ。自己評価は全職員で取り組み管理者がまとめ作成した。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の様子、ホームの行事予定や取り組み、行政からの情報が報告され、課題や問題、相談、意見、要望など話し合いサービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当職員とは平素から電話や出向いて行き、相談や情報交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のひなたぼっこ便りの中で利用者の暮らしぶりを写真と共に、担当職員からの手紙をそえて送付している。受診時の報告や金銭管理についても報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、家族アンケートなどを利用して意見や要望、苦情、相談など気軽に話せる機会を設け、それらをケアプランや運営面に活かしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動はない。やむを得ない場合、引継ぎ方法など工夫して利用者に影響がないように配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が段階に応じ外部・内部研修に参加できるよう支援している。職員会議で研修報告をして共有し日々のケアに活かしている。資格取得についても支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は月一回圏域のグループホーム長会議に参加し意見交換している。職員も年二回益田圏域の全体交流会で交流している。	○	さらに、他のグループホームとの相互訪問など交流が進むことを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人と家族との見学や2～3泊の体験入居を試みるなど、徐々に馴染めるように工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り、洗濯物干し、畑仕事など一緒に作業しいろいろなことを教えて貰っている。職員は利用者からのねぎらいや感謝の言葉に癒され、お互いが支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや希望を把握できるように努めている。困難な場合は、表情や行動、つぶやきから感じたり、職員間で情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスに家族も参加し、利用者の意向、要望をもとに、全職員で話し合い検討して作成している。	○	利用者の個人記録等の開示の準備が整っているため実現に期待する。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月一回モニタリングを行い、見直しを行っている。六ヶ月に一回の見直し時には家族も一緒に参加している。状態に変化が生じた場合はその都度介護計画の見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院等家族の状況や希望に沿って柔軟に対応しながら支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望に沿ったかかりつけ医への受診支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針も作成されており、重度化や終末期のあり方について、家族、職員、主治医、関係者との話し合いも繰り返し行われている。現在対応中の方のマニュアルもできている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	勉強会やミーティングの時にプライバシーの確保について確認している。日々の関わりの中でも職員が互いに声を掛け合いながら注意をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	いままでの生活や習慣を継続できるホームでの暮らしを目標に、一人ひとりのペースに合わせ、職員の暖かな見守りがなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時には利用者と冷蔵庫を覗きながら献立を考えたり、職員と一緒に調理、盛り付け、配膳から片づけまで一人ひとりが持てる力を活かせる支援をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴出来るようになっており、利用者の希望、要望に沿って支援をしている。夜間については希望があれば対応していきたいと考えている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	いままでの生活や経験から得意な事や好きな事、一人ひとりの力が活かせる場面づくりを考え楽しみごとや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、回覧板届け、日向ぼっこなど、戸外で過ごす時間を取るよう心がけている。個別には温泉や喫茶店、自宅訪問など支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	原則として日中は鍵はかけないが、利用者の状況により施錠する場合もある。	○	さらに話し合いを重ねてよりよい対応を工夫されたい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害対策マニュアルを作成し、全職員で共有している。年に数回消防署と地域の方の協力を得て一緒に避難訓練をしている。	○	備蓄等の対策に取り組んでいただきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量をチェックし記録している。年一回栄養士から栄養バランスの指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	吹き抜けの居間は明るく、台所からはおいしそうな匂いが漂ってくる。利用者が好みの場所で思い思いにくつろげるように、ベンチ、椅子が配置され、畳のスペースもあり季節の花も飾られ、みんなが集いたくなる雰囲気の間だった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や好みの小物が持ち込まれており、利用者や家族の写真、作品などが飾られ居心地よく過ごせるように工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。